所蔵品展

「測る人・画く人」

明治以降の第一高等学校図学・製図教育

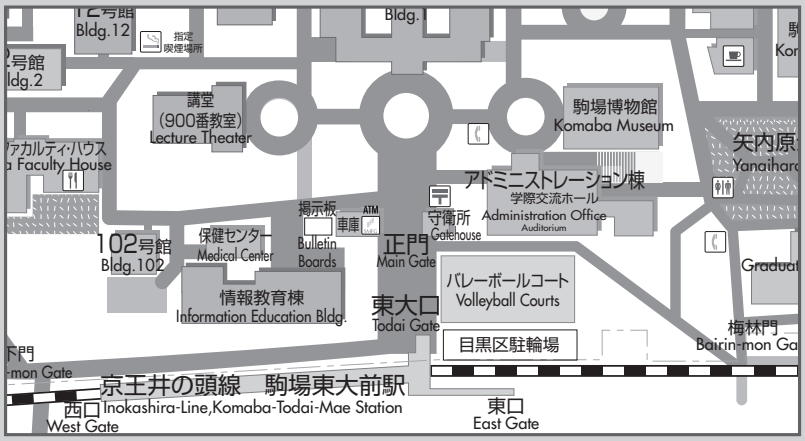
東京大学教養学部の前身である第一高等学校の歴史を紐解くと、理工系学生には図画学という名称の科目が教えられていた（明治19年：昭和25年）。この図画学は、実は第一高等学校の前身である東京大学予備門の時代にすでに、画学の科目名で理工学の基礎の一つとして教えられていたものであり（明治9年：明治19年）、図法幾何学と工業製図から構成されていた。教養学部の図学・製図（現在の図形科学Ⅰ、Ⅱ）がそれにあたる。

東京大学教養学部の図学教室（現在の情報・図形科学部会）は、第一高等学校時代までは画学教室と呼ばれ、明治初期以来の図画学教育で学生たちによって画かれた美しい提出作品、その題材となった立体モデルや見本図、教師や学生の使用した製図用具、教室の運営書類などを伝えている。学生の提出作品の中には図法幾何学の課題に対する解答図のほかに、自在画と呼ばれる写生画も含まれている。これらは併せて当時の画学教育の全容を伝えるとともに、図画学教育においては講義を受けることと並んで自ら画くことによる理解に力が注がれてきたことをうかがわせる。また、図学教室は、今は無い測量学教室の教材・機器類・学生による測量図作品をも伝えており、測った結果を画く営みを教える測量学教室と画学教室との交流の深さがうかがえる。

「測る人・画く人」展では、図学教室（現在の情報・図形科学部会）に遺された図画学・測量学関連の遺産と自在画関連の遺産を一望し、明治期以来の理工系教育の中で、画くことが科学技術を学ぶことにおいて果たした役割について顧みる。

表面の写真について

①機械部品（歯車）・木製 , 19 世紀後期
②立体模型・木製 , 19 世紀後期
③立体模型・木製 , 19 世紀後期
④ブーソルエクリメートル ,C & J F.B.,19 世紀後期 , フランス
⑤LE PRATICIEN INDUSTRIEL, S. Petit, 19 世紀中期 , フランス

次回の予告
2007 年夏休み企画　特別展

展覧会名：はじめて出会う囲碁の世界
開催期間：2007 年 7 月 14 日（土）～
　　2007 年 9 月 17 日（月・祝）
休 館 日：毎週火曜日
開館時間：10：00～18：00（入館は 17：30 まで）
入 館 料：無料